

令和6年度 新ひのお台幼稚園 自己評価公表シート

学校法人中井学園 新ひのお台幼稚園 理事長 淡野 宏仁

教育理念

みんなの幸せを祈る保育 … 子ども・家庭・地域社会・教職員全ての、自己肯定感と成長意欲と共生意識を、バランス良く育む保育を目指す

目指す子ども像

元気な子 … 多種多様な経験を通して、おおいに遊び学べる子
 のびのび自然に親しむ子 … 豊富な自然体験を通して、命の存在を感じられる子
 集中力・けじめのある子 … 立腰教育を実践し、自分の気持ちを表現したり折り合いをつけられる子

今年度の教職員の振り返りをもとに、Keep(継続 したいこと)・Problem(課題)・Try(解決に向けた手立て)を下表に記します。

学年 チーム	学 期	Keep (継続したいこと)	Problem (課題)	Try (解決に向けた手立て)
満 3	1	・生活の安定 ・絵本はルーティーン ・視覚支援 ・描画環境の充実	・給食の完食率 ・子ども同士のケンカに対する関わり方	・優先順位の付け方 ・乳幼児保育研修受講
	2	・トイレ ・ゆとりを持った保育 ・きめ細かな一人ひとりに合わせた関わり方	・給食の完食率 ・子どもの特性(発達や認知能力等)理解	・指示的な言葉かけから、提案・問い掛け型の言葉がけへ ・進級に向けた支援
	3	・行事のアップデート ・絵本の読み聞かせの定着 ・保育者と子どもが共に楽しむ ・成長に伴う関わり方	・子ども理解、発達理解 ・保育者間の情報共有 ・カリキュラム進度のペース配分 ・外遊び・廃品素材の活用 ・人員配置	・継続して同じ教材や環境に触れてみる ・早いうちから素材に触れる経験を多く用意する

学年 チーム	学 期	Keep (継続したいこと)	Problem (課題)	Try (解決に向けた手立て)
年少	1	・運動会の内容・運営 ・子ども達の特性を理解した上でのクラス運営	・子どもが発する言葉の理解 ・気温が高い時の遊び場の制限	・コミュニケーションの質を意識した保育 ・気温が高い時の遊びの工夫
	2	・保育室内での遊びの充実 ・計画的に進めた造形活動	・横割りによる子ども同士の関係性強化	・お当番活動等、子どもの発達に合わせた生活面の活動内容の変化 ・計画的に音楽環境を整える
	3	・劇遊びからの発展 ・お当番の仕事量の増加 ・仲良しデー（横割り）の効果 ・視覚支援 ・保育者も子どもも見通しを意識する	・カリキュラム量	・進度を保育者間で情報交換しながら確認を細やかに行う ・子どもの姿を中心にしたカリキュラムマネジメント
年中	1	・保育者と子ども達の関係作り	・子どもの姿、保護者のニーズ、保育者のねらいや願いの調整 ・子ども同士の関係性	・保護者と「子どもの育ち」に対する方向性のすり合わせ ・時には保育者が介入して関係性をコントロールする事も必要
	2	・大人数のグループの子ども達同士で遊ぶ事が増えた（集団形成） ・発表の機会を増やして子どもの自信を付けた ・折り紙を通した探求的な子どもの姿	・子ども同士の意見のぶつかり合いに対する支援や関わり方	・遊ぶ際のルール作りを子ども達に委ねる関わり方
	3	・一人ひとりの子どもに応じたコミュニケーション ・動画等 ICT 機器を使った子どもへの振り返り ・毎日席替え、環境変化	・その子なりの到達点や着地点の設定 ・用意や片付け等生活リズムの個人差に対する関わり方	・もっと深く「一人ひとりの育ちに寄り添う保育」をチームや園単位で話し合う

学年 チーム	学期	Keep (継続したいこと)	Problem (課題)	Try (解決に向けた手立て)
年長	1	・子どもの発達理解(言語・認知面) ・室内環境を意識した保育実践	・集中したり夢中になる事が少ない子ども達への関わり ・言語的なスキルの個人差	・折り紙など根気の要る教材の積極的な提供 ・保育者と子ども達の関係の土台を築く
	2	・見通しを持った生活の運営 ・助け合いを認める雰囲気作り ・協力して共通の目標に向かう姿の醸成 ・子どもの力を信じて任せる保育	・保育時間のやりくり ・子どもの「話を聴く姿勢」の醸成	・クラスの登降園時刻(全員が居る時間帯)の中での計画策定 ・保育者の話し方スキルアップ
	3	・子どもが自主的に考えたり行動出来る支援や環境構成 ・子どもの発達に伴う、先生の関わり方 ・子ども同士の話し合いに対する保育者の援助	・カリキュラム量の多さ	・カリキュラム見直し ・子ども理解に基づいた保育設計
預かり保育	1	・チームメンバーの機能的運営	・準備時間の確保	・シフト調整
	2	・保育室内のコーナー作り	・ホームクラスMTや準備	・ホームクラスでの実践を他の先生にも共有
	3	・利用児の荷物を入れる買い物かごの導入 ・外部研修会でのパル発表	・2号認定児がどのくらいの人数でどれくらいの利用頻度になるのか	・常に目の前の課題をクリアにしながら、一つ一つ改善していく運営体系作り

学年 チーム	学 期	Keep (継続したいこと)	Problem (課題)	Try (解決に向けた手立て)
リ ー ダ ー	1	・リーダーが機能的に動ける為のフォロー ・育休明けの同僚間コミュニケーション	・日誌チェック ・育休明けの業務ギャップ ・現場への介入度合い	・リーダーMT等で課題を共有したり解決案を導き出す
	2	・行事を現場の先生達と一緒にアップデート ・新しい取り組みの実践(園内研修・保幼小など)	・保育者や子どもの「したい」をどのように捉えるか ・子どもへの支援と保育者間の共有 ・行事のボリュームの大きさ	・保育環境や保育内容の設定を柔軟に考える
	3	・計画的なリーダーMTの開催とコミュニケーション ・登降園時の自由時間で行う運動的取り組み ・現場の先生達とのコミュニケーション	・行事に対する保育者間の認識の差 ・計画的に運営出来なかった行事があったこと	・MT時のコミュニケーションの質向上 ・早期の計画策定